http://decfamily.p1.bindsite.jp/2018/

We 35R

No.471　19/02/07

受験の日々の過ごし方

昨日・一昨日と続いて慶応・文の問題を引用したのは、出典である芹沢俊介さんの『家族という意志～よるべなき時代を生きる～』（岩波新書、2012）が面白いと思ったからである。紙面スペースの都合でこの出典を掲載できなかったが、興味をもった人は、受験が終わったら読んでみてほしい。

＊

昨日（６日）は、昼間に雨が降ったからか、帰りがけの空気がみずみずしい感じで、久しぶりにとても気持ちよかった。ついでに、夕方から晴れたこともあって夕空がキレイだったのだが、それにつけても、日が延びてきたなぁという感想を持った。諸君の「春」も近いはずであるから、ここはぜひ強い気持ちでもう一頑張りである。

＊

私立を受験してみて、「結構難しいな、自分は大丈夫だろうか…」という印象を持った人もたくさんいるに違いない。だからといってガッカリすることはない。

今まで私たちが授業や講習などで中心的に扱ってきた問題（例えばセンター試験の過去問など）は、全国の諸君が受けるものであるから、非常にオーソドックスで、標準的な表情をしているものなのである。国公立大学の二次個別試験の問題も、それぞれ個性があるとはいっても、根本的な方向性はセンター試験などと同じ方向を向いているイメージであって、何か変わった問題に取り組んだという印象はうすかったはずである。

ところが、私立大学の問題は、それぞれの大学・学部によって大きな個性がある。特に君たちが受験するレベルの大学では、問題のレベルが高い上に、特徴も顕著であるわけだから、過去問をやっていた時とは違って、本番を本気で体験すると、その強い個性に圧倒されてしまうということも起こりえる。また、出来なかった問題ほど、より強く印象に残ったりするものだから、気が弱い人は、必要以上に落ち込むことになりかねないのである。

というわけで、そういう大学の個性的な出題にいちいち心を惑わせていても仕方ないし、焦ったりすると、かえってペースを崩して次の受験に悪い影響を残すだけである。だから、サッサと気持ちを切り替えて、つまり、過ぎたことはサッサと忘れて、「次」の対策に全力を尽くすべきだろう。

とはいっても、出来なかった部分を確認しておくことは大切だ。個性的な問題そのものを解き直す必要はないが、その問題の中で気になった単語の意味を確認したり、思い出せなかった事項を確かめたりすることは、「次」に向けて大きな力となる。つまり、基礎的な部分（暗記が必要な部分）で確実でなかった部分を、受験をしながら補強していくイメージである。

現役生は、準備万端で入試に臨んでいるわけではない。受けた入試そのものを「次」への準備に結びつける、つまり、戦いながら力を養っていくことが大切だ。

だから、繰り返すが、ガッカリして自信喪失に陥っているヒマなどない。常に「次」を意識して、前向きな気持ちで自分の力を高める日々を送っていこう。そして、悲しい気持ちになったら学校に来ることだ。優しく暖かな友だちや先生方の笑顔があるのだから。